

令和6年産水稻における高温対策のポイント

令和6年6月27日
農業技術研究センター

今夏も暑くなると予報されています。高温障害の軽減には、葉色診断に基づく施肥管理が最も重要です。特に暑さに弱い「彩のかがやき」は高温対策を実施する重要な時期となっています。ほ場を良く見て回り、葉色に応じた施肥管理などを徹底しましょう。

1 気象予報

6月20日気象庁発表の1か月予報では平均気温は80%の確率で高いと見込まれています。なお、5月20日～6月20日の熊谷の日平均気温は平年に比べ1.4℃高くなっています。

6月21日に関東地方も梅雨入りとなりましたが、梅雨明けは平年並と見込まれています。いよいよ夏本番も間近です。

2 高温対策のポイント

(1) 早植栽培（5月移植）の穂肥施用

農業技術研究センターの5月1日植「コシヒカリ」や5月21日植「彩のかがやき」は、高温傾向により生育は旺盛で、分げつの発生も多くなっていることから、葉色は「4」（群落）程度と平年より淡く推移しています（6月20日現在）。

ほ場をよく観察し、葉色が「4」程度を下回った場合は、追肥を行きましょう。

「彩のかがやき」：出穂前23～22日頃に窒素成分で3kg/10a程度

「彩のきずな」：出穂前25～23日頃に窒素成分で3kg/10a程度

一発肥料体系においても高温で推移しているため緩効性肥料の溶出が早まり、穂肥としての効果が不足する可能性があります。このため穂肥施用時期に、葉色が「4」（群落）を下回った場合は、上記に沿った追肥を行きましょう。

詳しくは、農業技術研究センターHP掲載の「彩のかがやき」や「彩のきずな」の栽培指針・栽培暦をご覧ください。

(2) 普通期栽培（6月移植）の中間追肥

高温等により葉色が「4」を下回った場合は、追肥を行きましょう。

「彩のかがやき」：移植後30～35日頃に窒素成分で2kg/10a程度

「彩のきずな」：移植後20～25日頃に窒素成分で1kg/10a程度

(3) 登熟期間の水管理

出穂期以降は、田面近くの「うわ根」が活動の主体となるので、根の活性維持のため、出穂後7日以降は間断かん水を行い、1週間を1サイクルとし、湛水と断水を3～4日で切り替えると良いでしょう。強い断水は根に物理的なダメージを与え養分吸収を阻害するので避けます。

また、高温が続くときは夕方以降に入水を行うことで田面の温度を下げる効果が期待できます。

3 イネカメムシの防除

不稔粒や着色粒など著しい被害を与えるイネカメムシの防除時期の目安は、1回目が出穂期から穂揃期、2回目が穂揃期の7～10日後となります。防除は2回行うことが望ましいですが、1回しか薬剤散布できない場合は「出穂期から穂揃期」の防除を優先してください。

イネカメムシの発生にご注意を！

イネの穂を加害するカメムシ類のうち、近年、主に県東部や北東部で「イネカメムシ」の発生が多くなっています。県内での発生地域も拡大傾向にあります。本虫の加害により不稔や斑点米が生じ、多発した場合には収量・品質に大きく影響します。

【特徴】

- ・ 体長約13mm。黄褐色で背部両側に白色帯を持つやや細長いカメムシ。
- ・ 7月頃から水田に飛来。穂を加害するため、出穂期頃から発生が増加する。
- ・ 行動はやや素早く、近づくと穂や葉の裏側に隠れたり、飛び去る。
- ・ 盛夏期の日中はイネの株元に潜み、夜間～午前中に穂へ来ることが多い。



穂を加害する成虫

葉に止まる成虫

もみ基部を加害する成虫

右端は成虫・他は幼虫



本虫による斑点米

写真：（一社）埼玉県植物防疫協会・埼玉県農業技術研究センター・埼玉県病害虫防除所

- 7月～9月にかけて発生が続きますので水田を注意深く観察してください。
- 盛夏期は日中を避けて朝のうちに水田を観察することが重要です。
- 曇や雨の日は日中もイネの穂や葉にいたることが多いため観察しやすくなります。
- 裏面を参考に、出穂期～登熟期に必ずイネカメムシの防除をしましょう。
- 幼虫の加害能力も高いため、見逃さず確実に防除してください。

発行：埼玉県農産物安全課・埼玉県病害虫防除所（令和6年3月）

イネカメムシの防除対策

①初発の把握

⇒ 越冬場所からの飛来は7月上旬頃から見られる。6月下旬以降、暑い日が数日続いた後は注意深く水田を観察する。

②不稔被害の防止・低減（1回目防除）

⇒ **出穂期～穂揃い期**に必ず薬剤散布を行う。粒剤では処理を数日早める。

③斑点米の防止・低減（2回目防除）

⇒ **穂揃い期の7～10日後**に薬剤散布を行う。粒剤では処理を数日早める。

④収穫後は速やかに耕うん

⇒ 刈株を埋没・枯死させ、虫の生息場所を作らない。

⚠ 本虫は大型であることに加えてイネの穂に対する選好性が高く、小型の斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ、イネホソミドリカスミカメなど）と同じ防除対策では効果が上がりにくい。本虫の発生時期に合わせ、できるだけ虫体に薬剤が到達するような対策を取る。

移植時期	品種	7月			8月			9月	
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬
4月下旬 ～5月上旬	彩のきずな コシヒカリ		防除時期						
	彩のかがやき		防除時期						
5月中旬 ～5月下旬	彩のきずな コシヒカリ		防除時期						
	彩のかがやき				防除時期				
6月中下旬	彩のきずな				防除時期				
	彩のかがやき					防除時期			

防除時期は、**1回目**（出穂期～穂揃い期）および**2回目**（穂揃い期の7～10日後）の期間の目安です。実際の防除に際しては、イネの出穂状況を十分確認して適期に行ってください。

☞ **防除は2回行うことが望ましいですが、「出穂期～穂揃い期」の防除を優先的に行ってください。**

【イネカメムシの防除薬剤例】

各薬剤の登録内容は令和6年3月15日現在

商品名	IRACコード	倍数・処理量	使用回数・時期
スタークル液剤10	4A	1,000倍	収穫7日前まで・3回以内*
キラップフロアブル	2B	1,000～2,000倍	収穫14日前まで・2回以内
トレボン乳剤	3A	2,000倍	収穫14日前まで・3回以内
スタークル豆つぶ	4A	250g	収穫7日前まで・3回以内*

*「スタークル液剤10」「スタークル豆つぶ」とも銘柄ごとの総使用回数は3回以内ですが、薬剤の有効成分（ジノテフラン）は共通です。ジノテフランの総使用回数は4回以内ですので注意してください。

県内における本虫の最新の発生情報は、埼玉県病害虫防除所ホームページをご覧ください。（右のQRコードからもご覧いただけます）

<https://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0916/>



本虫に係る相談については、お近くの県農林振興センターか以下のいずれかに御連絡ください。

埼玉県病害虫防除所 電話：048-539-0661
埼玉県農産物安全課 電話：048-830-4053

